公民館報 ふるさと きたおの
第83号

世帯数と人口（市民課調べ）
令和４年７月１日

区	世帯数	男	女	計
古　町	154	182	212	394
宮　前	82	105	100	205
大　出	226	269	295	564
上　田	112	123	127	250
勝　弦	202	225	198	423
計	776	904	932	1836

第83号　令和４年８月１日

地域が担う学習支援

さつまいも苗の植え付け

施設の賑わい

北小野公民館長　神戸　保

地区センター（複合施設）の玄関は、終日様々な方が出入りしている。老若男女が相談や軽スポーツ、福祉活動や学習講座、図書館等、短時間であっても、それぞれの方が目的を持っている。表情から伺い知る事は出来ないが、一応に「来る時」と「帰る時」の顔が違うように見えてならない。特に、目的を同じくした集いなどは、来る時は一人で足早に館内に入っても帰る時には、仲間と楽しそうに談笑し玄関を出ていく。表情は、とても穏やかに見える。そんな姿を目にする時、「公共施設」の大切さを感ずる。施設を拠り所として「集い」「学ぶ」地域の皆さんの生活を玄関口より垣間見る事が出来る。なかでも公民館は、地域の賑わいを創出する拠点になっていたい。今の役職にある限り、私はその先頭に立ちたい。

人生のパートナー

せを求めながら歩む私たち！　「夫婦」「子供」「孫」その一人一人に人生がある。

かけがえのない「家族」　子供たちのために、私たちが出来る事は？

穏やかな日々を過ごす家族。地域の皆さんと交わり、支え合いながら暮らす、平凡でも幸せな毎日。子供たちの笑顔は、地域を元気にしてくれる「宝」だ。家族の絆程、大切なものはない。この子たちのためにも、今私たちが出来る事を考え「行動」する時だ。

かけがえのない家族

住む人がいなくなった「空き家」　家の将来考えた事、ありますか？

北小野地区内には空き家が77戸ありました。（昨年６月調査）その内、売却や賃貸希望の空き家は、12戸のみとなっています。殆どの所有者は自己管理をしております。所有者には家のみでなく、お墓や、田畑、山林などあり、家だけ処分出来ない事や、家の中の片付けが出来ていない等、様々な理由がある様です。「空き家」に潜むリスクを考え、何から手を付けていけば良いかを共に考えてみましょう。

中学生による空き家の片付け

相談窓口

北小野地区振興会定住対策専門部会（支所内）
又は、（株）しおじり元気カンパニー（えんぱ～く内）
（空き家整備、改修、解体など補助制度あります）

「家族」それは、かけがえのない

生活を共にし「喜怒哀楽」の人生を支え合い、家族の絆を深め、日々の幸
その生きざまにスポットをあててみた。共に考えよう「家族」の在り方を!

家族の「あり方」を考えてみよう　「跡継ぎ」と言う時代は昔の事か？

誰もが通り過ぎる　…その時、貴方や家族は…
答えはすぐには見つからないけれど、心に重くのしかかる
～あなたの想いや願いは家族に伝わるか～
パネラーは語る「今の暮らし」「暮らしの中での不安」
「わが家の将来」「跡継ぎは」「もし、空き家となったら」

増田忠明さん（大出）

夫婦二人暮らし。今は不自由さを感じないが「病気になったらどうしよう」「買い物に行かれなかったらどうしょう」等不安もある。長男が跡を継げと言われてきた。家を守りながら、将来も実家は残していきたい。

小松末子さん（古町）

姉妹だったが、家を継いでいく時代に育った。子供は県外で就職しているが、いずれは実家に帰って、家やお墓、農地を守ってほしい。自分も空き家問題を勉強しながら、子供に託していきたい。

林　徹さん（大出出身）

実家を出て大門で暮らす。父が一人で生活していたが、病気になり実家は空き家となっている。母や祖母から生家を継ぐ様に言われていたが、訳あって家を出た。実家の片付けや管理を自分の子ども達にはさせたくない。

地域の問題としての「空き家対策」

赤羽　修さん
（定住対策専門部会長）

空き家ではなく私は「不在世帯」と言いたい。空き家の新しい入居者も増えてはいるが、所有者にとっては、家の中の片付け、農地、山林、墓等、解決しなければならない数々の問題も多く、簡単には手放せない現実もある。中学生が地域貢献として、空き家の片付けをしてくれており心強い。そうした家は売却や賃貸が成立していく。

木下巨一さん
（コーディネーター）

空き家問題を地域の課題としてとらえていく必要がある。跡継ぎについても、一人一人の人生問題として、直面した時に、どの様な備えが必要かと合わせて、地域の「仕組みづくり」を考えていく事も大切である。

ゆきづりの人

小野　富義さん（89歳）
昭子さん（88歳）

人生は二人三脚

広い屋敷に、江戸時代中期の家、改装はしているものの、上座敷や下座敷は気品が漂っていた。家を守りながら、一日の始まりはラジオ体操から。本や新聞で世相を知る事が朝の日課だ。夫婦の役割は決まっている。富義さんは、畑でモロコシやジャガイモを育て出荷作業。

昭子さんは、草花の管理や、自家用野菜を育て食卓を飾る。夫婦共に「土をいじりながら」自然から英知を頂いている。夏場は日が沈むまで働き、冬場は家の周りでウォーキングや読書。健康の秘訣はここにある。趣味も多彩で、昭子さんは新聞の斜面を、「書き取り帳」に書き写したり、「社会」「経済」「自然」などスクラップもかかさない。手間はかかるが継続が力となっている。富義さんは、短歌づくりや、学校からの依頼で、卒業証書の「名前書き」に筆をはしらせている。自然豊かなこの里で、18世紀後期の形式を保っている家を守りながら「欲もなく」穏やかな生活をしている夫婦の姿に、笑顔をいただき元気づけられた。会話が深まるごとに、輝きを放つ夫婦の絆を垣間見た取材であった。（神戸）

話題 topic

講師：米山　秀比古さん

公民館出前学習　…地震の恐ろしさを知る…

宮前分館を会場に、北小野公民館の出前学習会が開かれた。「過去に、日本全国で発生した大震災から学ぶ」と題して、前長野県職員の米山秀比古さんが、地震のメカニズムや、地震時の対応、被害想定など、映像を交えて分かりやすく説明していただいた。備えの大切さを実感した学習会であった。

～信濃の街道と小野・塩尻～

元（株）新潮社校閲部部長の矢彦孝彦氏を迎え、ふるさと歴史講座が行われた。

木曽谷と伊那谷を結ぶ、重要な要路となった「初期中山道」の歴史上での峠・宿場・街道など分かりやすく解説していただいた。また「塩尻の地名」の諸説や「たのめの里の由来」等いにしえのロマンも学習した。

講師：矢彦　孝彦さん

北小野公民館の facebookページを開設しました。
是非ご覧ください。
こちらからすぐにアクセス！→